

令和3年12月9日

国土交通省中部地方整備局

新丸山ダム工事事務所

本格的な新丸山ダム本体建設工事に着手します

**新丸山ダム本体建設工事起工式**

を開催

木曽川の「治水の要」の役割を果たしてきた丸山ダムを再生するための新丸山ダム本体建設工事が着手の運びとなりましたので、『新丸山ダム本体建設工事起工式』を開催します。

1. 式典概要日時：令和3年**12月18日（土）11:00～12:00**場所：岐阜県加茂郡八百津町八百津 3389 番地 1  
八百津町 B & G 海洋センター体育館  
(八百津町ファミリーセンター東側)

主催：国土交通省中部地方整備局

次第：別紙 1 参照

備考：新型コロナウイルス感染症拡大防止のため対策を徹底し、人数を制限して開催します。  
一般の方の参加・観覧はできません。

八百津町 B &amp; G 海洋センター体育館

2. 取材について

申込み：取材をご希望される場合は、取材申込書（別紙 2）を電子メールにてお申込みください。お申込みいただいた人数分の資料をご用意いたします。

駐車場：八百津町ファミリーセンター前の駐車場をご利用ください。（別紙 3 参照）

その他：新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため、以下についてご協力をお願いいたします。

- ・会場内ではマスクの着用及び咳エチケットの励行にご協力をお願いいたします。
- ・会場入口で検温を実施し、発熱、咳症状等体調のすぐれない方はご入場をお断りします。
- ・会場入口に手指消毒用アルコールを設置します。手指を消毒のうえご入場ください。

3. プレスリリース配布先

中部地方整備局記者クラブ、美濃加茂市政記者クラブ、可児記者クラブへ同時配布します。

記者発表資料は当事務所公式ウェブサイトでも掲載しています。

4. お問い合わせ先・取材申込先

国土交通省 中部地方整備局 新丸山ダム工事事務所

(技術) 副所長 <sup>みうら</sup>三浦 調査課長 <sup>ばば</sup>馬場

電話：0574-43-2780 (代表) E-mail：cbr-shinmaru@mlit.go.jp

新丸山ダム工事事務所  
公式ウェブサイト

# 新丸山ダム本体建設工事起工式

令和3年12月18日（土）

午前11時から

## 式次第

- 一. 開式
- 一. 式辞
- 一. 挨拶
- 一. 来賓祝辞
- 一. 来賓紹介
- 一. 祝電披露
- 一. 事業概要説明
- 一. 鍬入れ
- 一. くす玉開披
- 一. 閉式

# 取材申し込みメールアドレス 【cbr-shinmaru@mlit.go.jp】

## 新丸山ダム本体建設工事起工式 取材申込書

下記に示す内容について記載の上、メールでお申し込み下さい。

《申し込み期限: 令和3年12月15日(水)17:00まで》

貴社名	
連絡先	電話番号 ( )
氏名	
当日連絡がとれる 連絡先(携帯電話)	
メールアドレス	

### ■取材の希望内容について

取材人員	人
駐車車両台数	台 (車種: )

※注意事項：報道関係者であることがわかるように腕章または名札の着用をお願いいたします。  
参加者多数の場合、人数の調整をお願いする場合があります。駐車場所は現地の指示に従ってください。

- ・新型コロナウイルス感染防止対策(マスク着用及び咳エチケット励行、発熱症状等体調がすぐれない方のご入場お断り、手指消毒)を徹底いたします。
- ・参加される方におかれましても、ご協力いただきますようよろしくお願いいたします。
- ・新型コロナウイルス感染症の状況により、本式典の取扱いについて変更する場合があります。

# 駐車場位置図

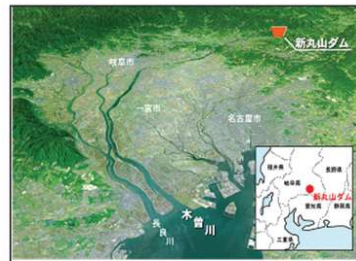




# 新丸山ダム建設事業

## 1 事業の概要

新丸山ダム建設事業は、木曾川河口から約90kmの木川中流部に位置する既設丸山ダム(昭和31年完成、右岸：岐阜県加茂郡八百津町八百津地先、左岸：岐阜県可児郡御嵩町小和沢地先)をかさ上げすることにより洪水調節能力などを高め、洪水氾濫の防止・軽減などを図る事業です。



### 【流域の概要】

木曾川は、長野県木曾郡木祖村の鉢盛山を源流に、伊勢湾に注ぐ幹川流延長約229km、支川飛騨川を含めた流域面積5,275km<sup>2</sup>の一級河川です。地形的には日本最大の海拔ゼロメートル地帯や堤防より周辺地域が低いなどの特性を有しています。下流域沿川は岐阜・愛知・三重県に接し、11市9町4村の約58万人の暮らしやものづくり産業などを支える地域となっています。

### 【目的】

#### ① 洪水調節

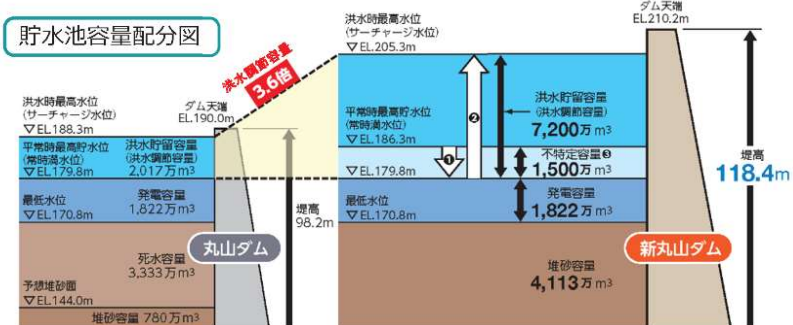
戦後最大洪水となる昭和58年9月洪水と同規模の洪水を安全に流下させます。

#### ② 流水の正常な機能の維持

渇水時において河川環境の保全や既得農業用水等の安定的な供給等のための流水を新たに確保します。

#### ③ 発電

既設の丸山発電所及び新丸山発電所における発電を増やします。

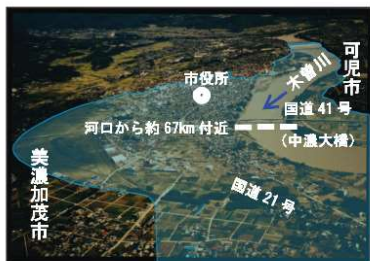


●：洪水貯留（洪水調節）の準備をするために事前に水位を下げる操作 ●：洪水貯留（洪水調節）を行う操作 ●：河川における流水の正常な機能を維持するために必要な容量

### ① 洪水調節

#### 【過去の災害】

昭和58年9月28日、台風10号に伴う豪雨によって、木曾川は記録的な大出水となり、美濃加茂市・坂祝町などで氾濫し、4,588戸に及ぶ甚大な浸水被害が発生しました。



昭和58年9月洪水の浸水範囲



昭和58年9月洪水の状況（美濃加茂市内）

### 【昭和58年9月洪水と同規模の洪水を安全に流下】

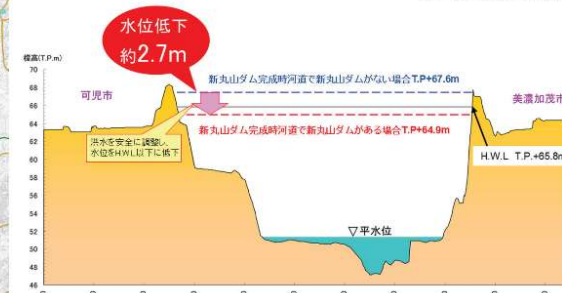
洪水調節容量を2,017万m<sup>3</sup>から7,200万m<sup>3</sup>に増強し、昭和58年9月洪水に対して、新丸山ダムおよび既設ダムによる洪水調節、樹木伐採と堤防補強を行い、洪水を安全に流下させることが可能となります。

新丸山ダムが無い場合と比べて、今渡ダム下流地点の水位を約2.7m低下、想定される浸水を解消することができます。

#### ●事業実施前の氾濫想定図



#### ●今渡ダム下流地点（越水被害のあった美濃加茂市・可児市）河口から約67.0km

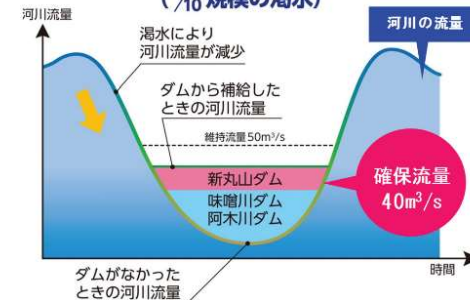


※記載されている図数値等は現時点の試算値

### ② 流水の正常な機能の維持

新たに不特定容量1,500万m<sup>3</sup>を確保し、阿木川ダム及び味噌川ダムからの補給とあわせて、既得の農業用水等の取水を安定させるとともに、木曾成戸地点において河川環境の保全等のために必要な流量の一部である40m<sup>3</sup>/sを確保します。

#### 木曾川における維持流量確保のイメージ (1/10規模の渇水)



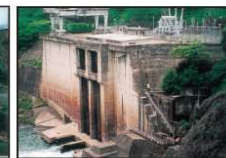
### ③ 発電

ダム貯水量の増加による高低差を利用して、最大出力を188,000kWから210,500kWへと22,500kWの増電となります。

	丸山発電所	新丸山発電所
現在	125,000kW	63,000kW
建設後	143,000kW	67,500kW



丸山発電所



新丸山発電所



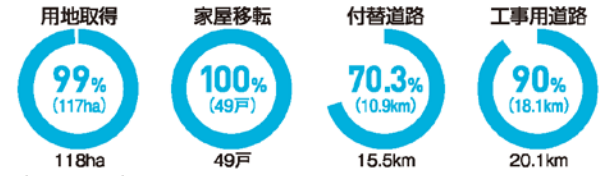


# 難易度の高いダム再生に挑みます

## ダム本体工事の進め方

戦後、大型建設機械を使用した工事の先駆けとなった丸山ダムを再生する新丸山ダム建設事業は、DX(デジタル・トランスフォーメーション)推進の先駆けとなって工事を進めています。

現在の進捗状況



ダム本体及び関連工事



(令和3年3月現在)

### 新丸山ダムの嵩上げ方法

新丸山ダムは、丸山ダムの下流側に堤体の一部が重なる形で嵩上げを行う再開発事業です。丸山ダムは木曾川本川の洪水調節をするうえで重要な役割を担っているとともに、大規模な発電を行っているため、工事期間中も丸山ダムを運用します。既存のダムを運用し、木曾川のような大河川の洪水処理をしながらの大規模な嵩上げ工事は、わが国屈指の難易度の高い工事であり、先進的な技術を投入するダム建設事業となります。

#### Type 1

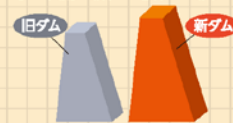
旧ダムを取りこむ形で嵩上げる工法



● 新中野ダム ● 川上ダム

#### Type 2

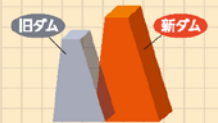
既設のダムの機能を維持しながらその下流に新ダムを作る工法



● 津軽ダム ● 内海ダム

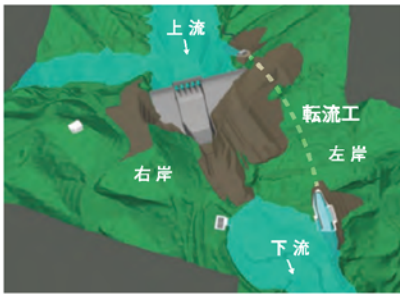
#### Type 3

旧ダムと新ダムの一部が重なる工法

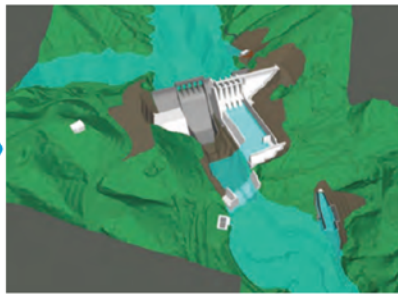


新丸山ダムの嵩上げ

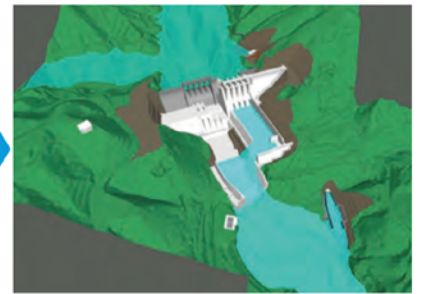
### ● 木曾川本川の洪水処理をしながらの施工



工事を安全に行うため、左岸側(上流から見て左側)に転流工(仮排水トンネル)を掘ります。その後、基礎掘削工事を行います。



ダム本体はまず、左岸側から作ります。左岸側が完成すると、洪水時に新丸山ダムの設備を用いた放流を行うことができ、河床部の工事を安全に進めることができます。



河床部(中央)と右岸部の工事を行います。河床部は、洪水時には丸山ダムからの放流水が流れることになるため、洪水の少ない季節に安全に工事を進めます。

## DX(デジタル・トランスフォーメーション)の推進

新丸山ダム建設事業では、データとデジタル技術を活用し、働き方を変革し、安全・安心で豊かな生活を実現する「DX」を推進しています。

### 〈新丸山ダム建設事業におけるDXの事例〉

#### BIM/CIM\*モデルの作成・活用

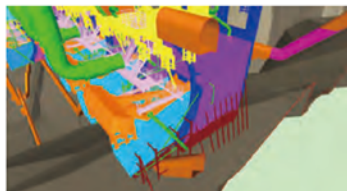
ダム周辺の地形や地質、ダム本体、放流施設等の詳細な3次元モデルを作成し、可視化することで、設計や施工手順の検討などに役立てています。ダムを一望できる展望箇所の検討などにも用いることができます。

\*BIM/CIM: Building/ Construction Information Modeling, Management.



CIMモデルでダム展望イメージを作成し、展望箇所を検討

土木や機械に関するCIMモデルを作成し、組み合わせることによる工事間の設計確認



#### 現場確認のリモート化(遠隔臨場)

ゴーグル型のウェアラブルカメラなどを用いて工事現場の映像を配信することで、事務所にいながら現場を確認することができます。



分かりました。

もう少し右側の画像をください。



#### AR(拡張現実)の活用

AR(拡張現実)の技術を用いて、実際の現場に3次元モデルを重ね合わせることで、設計と現地を比較したり、現場の説明に活用したりすることができます。

